

報 告

近畿病院図書室協議会第128回研修会 参加記

岡松沙和香

今回の研修会は、テーマ「図書館を飛び出して図書館を見に行こう」ということで、図書の卸業者であるトーハン大阪支店の見学(図1)からスタートし、国立国会図書館関西館、天理大学附属天理図書館の見学を行った。

トーハンは、2005年に埼玉県桶川市に拠点が移転したため、保管してある書籍は少なくなっていたが、現在でも毎日数台のトラックが配送に向かうそうだ。移転前は多くの在庫の中から注文された本を探し出し、配送するのはさぞ大変だっただろうと感じられるほどの広い倉庫であった。



図1 トーハン大阪支店

国立国会図書館関西館(図2)は、2013年10月に開館10周年を迎えた。住宅街を過ぎた場所にあり、緑が豊かで館内の造りひとつひとつにこだわりを持って設計されていた。東京本館同様多くの本を収集しているが、関西館では、アジア情報サービスを行っているため、アジア各

国の新聞、雑誌をはじめ多数の文献があった。他にも、電子図書館サービスは「いつでも・どこでも・だれでも」を目指して、貴重な資料の電子展示会、デジタル化された資料をみることができる。実際に足を運ぶことが難しい人にも嬉しいサービスである。地下書庫の書架は色分けされるなど、広い書架の中でリクエストされた本を早く提供するための工夫がされていた。膨大な資料の中から資料を探すことは大変だろうが、一度経験してみたい。また、作業室もあり、文献複写専用の部屋・貸借図書専用の部屋では多くの人働いているのが見えた。納本制度により発行された本は全て集まる国会図書館には公共図書館だけでなく、多くの図書館から依頼がくるのだろう。採用試験に挑戦することすらできないが、司書になったからにはあの場所で働くことは夢である。閉架図書館である東京本館にも見学に行きたい。

国会図書館関西館のあとは、昼食と奈良散策。中学の修学旅行以来久しぶりに訪れた奈良は紅



図2 国立国会図書館関西館の前で

葉が美しく、散策にはいい季節だった。古い町並みが日本古来のものを感じさせ、生まれ育った長崎の異国情緒あふれる古さとはまた違った雰囲気があった。

天理大学附属天理図書館（図3）は、天理大学内にある。石造りの重厚な建物は開館当時の面影を残している。館内の照明やドアなども当時のままであり、低い天井がまた歴史を感じさせた。2つの閲覧室からはどちらからも書庫に入ることができる。中央に書庫がある造りは初めてみた。蔵書の中には、4つの特別文庫があり、連歌・俳諧書中心のコレクションである綿屋文庫、国宝『欧陽文忠公集』をはじめとする古義堂文庫、京都吉田神道家伝承集書の一部を所蔵する吉田文庫、近世大和の寺社・支配・庶



図3 天理大学図書館前にて

民関係の文書・記録・地図など約6万点をはじめとする近世文書がある。その他、国宝6点・重要文化財86点を含め貴重な資料が収蔵されている。今回は、書庫内の貴重な書籍を数点見せていただいた。古い紙の質感が触れると壊れてしまいそうだった。綺麗に製本された本は専用の箱に入れられ、大切に保管されていた。製本も、和漢書・洋書それぞれの専門の方が行っているようだ。古い洋書の背表紙が並ぶ棚は、映画や小説の中に入りこんだようだった。展示室には、国語の教科書でならった有名な古典の本の実物やレプリカが展示してあり、巻物から地図、大きな医学書まで全てが興味深いもので、丁寧な解説をしていただきながら皆が立ち止まってじっと眺めていた。

長崎から大阪へ来て2カ月が経過した。私の実家の長崎にはあまり大学もなく、市立図書館が2008年に開館したばかりという全国的に見ても図書館教育があまり活発とはいえない場所だった。論文を書くにも資料を取り寄せてもらうことが多かった。大阪は大学も多く、たくさんの図書館がある。それぞれの図書館に特徴があり、見ていて飽きない。幸運にも図書館の仕事を続けることができたのだから、これからもたくさんの図書館を見てみたい。そして、それぞれの特徴を知り、活用し、自館をより良い利用環境にしていきたい。